

# 金沢学院大学 学修の手引き

本学の卒業・進級要件は、全学で定められた「学則」に加え、各学部・学科の「教育課程表」で詳細が定められています。自身の所属する学科の要件を正確に理解し、計画的に履修を進めてください。

## 1. 卒業要件(大学)

卒業は、以下の2つの要件を全て満たした者に対して認定され、卒業証書・学位が授与されます。

No.	大学	詳細
① 在学期間	4年以上在学すること。 最長8年まで在学可能(最長在学期間)。	各学科の教育課程表に基づいた単位構成(次項参照)。
② 単位数	下記の単位数(総計128単位以上)を修得すること。	

### △ 卒業認定の注意点

- **GPA 基準:**卒業判定は、GPAが原則1.0以上の者を基準とします。
- **単位制限:**卒業に必要な単位数に、各学期の上限(原則24単位)を超えて修得した単位は含まれません。
- 詳細については、各学部・学科の「教育課程表」を確認してください。

## 2. 卒業に必要な単位構成(各学部)

卒業に必要な総単位数は128単位以上です。その内訳は各学部で異なります。

### <文学部>

学科・専攻	教養科目		外国語科目		専門教育科目			学科共通科目
	必修	選択	第一外国語	第二外国語	必修	選択必修	選択	
文学部					82単位以上			
日本文学専攻	14 単位	16 単位 以上	12 単位	4 単位 以上	14単位	—		12 単位 以上
英米文学専攻					16単位	—		
歴史学・考古学専攻					—	12単位		
心理学専攻					8単位	—		

<教育学部>

学科	教養科目		専門科目		教養・専門科目	
	必修	選択	必修	選択	必修	選択
教育学科	14 単位		30 単位		84 単位以上	

<経済学部>

学科	教養科目		専門科目	
	必修	選択	必修	選択
経済学科	16 単位	16 単位以上	14 単位	82 単位以上
経営学科	16 単位	16 単位以上	14 単位	82 単位以上

<芸術学部>

学科	一般教養科目		語学		専門科目	
	必修	選択	必修	選択	必修	選択
芸術学科	15 単位	5 単位以上	4 単位	4 単位以上	100 単位以上	
					18 単位	82 単位以上

<スポーツ科学部>

学科	教養科目		外国語科目		専門科目		
	必修	選択	必修	選択	必修	選択必修スポーツ実技	選択
スポーツ科学科	17 単位	5 単位以上	4 単位	どれか一つの言語を4 単位以上	98 単位以上		
					36 単位	6 単位	56 単位以上

<栄養学部>

学科	教養科目		外国語科目		専門科目		
	必修	選択	必修	選択	専門基礎(必修)	専門(必修)	選択
栄養学科	16 単位	4 単位以上	4 単位	4 単位以上	100 単位以上		
					38 単位	33 単位	29 単位以上

<情報工学部>

学科	教養科目		外国語科目		専門科目	
	選択	必修	選択	必修	選択(必修)	選択
情報工学科	12 単位 以上	8 単位	4 単位 以上	104 単位以上		
				48 単位	18 単位	38 単位 以上

△ 進級要件

2 年次終了時まで、原則 50 単位を修得した者は、第 3 年次に進級することができる。

3. 授業時間割と定期試験時間割

時限	授業時間帯
1 限	9:10 ~ 10:40
2 限	10:50 ~ 12:20
3 限	13:20 ~ 14:50
4 限	15:00 ~ 16:30
5 限	16:40 ~ 18:10

時限	定期試験時間帯
1 限	9:30 ~ 10:30
2 限	10:50 ~ 11:50
3 限	12:50 ~ 13:50
4 限	14:10 ~ 15:10
5 限	15:30 ~ 16:30
6 限	16:50 ~ 17:50

4. 単位制とその算出基準

本学では、所定の科目を履修し、卒業に必要な単位数を修得する**単位制**を採用しています。学修期間は、セメスター制とクォーター制に基づき運用されます。

科目区分	登録期間	期間の目安
前期・1・2 クォーター	4 月の履修登録期間に登録	前期授業開始直後
後期・3・4 クォーター	9 月の履修登録期間に登録	後期授業開始直後
通年科目	4 月の履修登録期間に登録	1 年間を通じて開講される科目
セメスター制	1 年を「前期」と「後期」の 2 つの大きな学期に分けていることを示し、その間に「夏季休業」と「春季休業」があることを示しています。	
クォーター制	1 年をさらに細かく「1 クォーター」「2 クォーター」「3 クォーター」「4 クォーター」の 4 つの期間に分けていることを示しています。	

- セメスター制:前期 15 週、後期 15 週で構成されます。
- クォーター制:各クォーター8 週で構成されます。

△ 授業の方法に応じ、授業時間外に必要な学修などを考慮し、次の基準により単位数を計算します。

授業形態	授業時間(週時数)	単位付与の基準
講義・演習(通常)・外国語	週2時間(90分1コマ)	・各クォーター8週で1単位、半年15週で2単位、または年間30週で4単位が付与されます。 ・授業1時間に対して、予習および復習で2時間が必要です。(授業1時間につき、半年15週で学修時間が45時間となり、1単位となります。)
演習(保育士養成関係科目)	週2時間(90分1コマ)	半年15週で1単位、または年間30週で2単位が付与されます。
実技・実習	週2時間(90分1コマ)	半年15週で1単位、または年間30週で2単位が付与されます。実技・実習科目は30時間の授業をもって1単位とします。
栄養学科関係科目	週時数2(90分)、週時数3(135分)、週時数4(180分)	実験、実習科目は週時数3の授業を計15週で1単位が、演習科目は週時数2の授業を計15週で2単位が付与されます。

## 5. 単位制の定義と学修時間

単位制は、所定の科目を履修することにより、それらの科目ごとに定められている単位を順次修得し、原則として4か年の在学期間のうちに卒業に必要な単位を修得する制度です。

項目	内容
単位の定義	科目を修得するのに必要な学修時間を示したもの。
1単位の学修時間	1単位の授業時間は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを基準としています。
学修時間の算出	学修時間は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修などを考慮して計算します。

## 6. 授業科目ナンバリング体系

授業科目を体系的に示すため、以下の構造に基づいたナンバリングコードを導入しています。

### ◆ ナンバリング構造

構造	定義	備考
① 組織コード	L (文学部), E (経済学部), N (栄養学部) など	学部、学科の分類を示す。
② 学問分野	LA (文学系), SE (経済系), SZ (演習) など	科目の専門分野を示す。
③ 水準コード	A, B, C (大学) / S, A, B (大学院)	科目の難易度を示す。

### ◆ 水準コードの定義

課程	水準コード	内容
大学	A	卒業論文、卒業研究等(応用、専門レベル)
	B	発展的な内容の科目(中級レベル)
	C	基礎的な内容の科目(入門レベル)
大学院	S	専門的な科目(博士)
	A	発展的な科目、研究指導科目(修士)
	B	基礎的な科目、研究科等共通科目(修士)
	D	経営情報学研究科(博士)

ナンバリング体系

ナンバリング構造	学部	学科	学問分野	水準コード	識別コード (学問分野の通し番号)
	①		②	③	④ 11～、101～

①				③	
文学部	L	文学科	L1	水準コードの定義	
教育学部	K	教育学科	K1		
経済学部	E	経済学科	E1		
		経営学科	E2		
経営情報学部	E	経営情報学科	E3		
情報工学部	I	情報工学科	I1		
芸術学部	A	芸術学科	A1		
スポーツ科学部	S	スポーツ科学科	S1		
栄養学部	N	栄養学科	N1		
大学院	M	経営情報学研究科(修)	M1	専門的な科目(博士)	S
		人文学研究科人文学専攻	M2J	発展的な科目, 研究指導科目	A
		人文学研究科心理学専攻	M2P		
		スポーツ健康学研究科	M3		
	D	経営情報学研究科(博)	D1	基礎的な科目, 研究科等共通科目	B

			①	②	科目名	①④
教職(共通)	TC	教職課程科目	TC	-	教職論	TC11～
学芸員(共通)	CC	学芸員課程科目	CC	-	博物館概論	CC11～
司書(共通)	LC	司書課程科目	LC	-	図書館概論	LC11～

◆教養科目 Kは一般教養

			②	④	科目名	①②③④	
学部共通 (一般教養科目)	修学基礎系(初年次教育)		K	101～	学修基礎 I a	L1KC101～	文 芸術
					学修基礎 I a	A1KC101～	
	情報学基礎系		K	201～	コンピュータ基礎演習	K1KC201～	教育
	人文・社会・自然系		K	301～	哲学 I	E1KC301～	経済
	キャリア教育・就職関連・FSP		K	401～	キャリアデザイン I	L1KC401～	文 芸術
					キャリアデザイン基礎	A1KC401～	
	地域連携関連		K	501～	地域課題研究 I	N1KC501～	栄養
語学系		K	601～	英語 I	K1KC601～	教育 経営	
				英語 II	E2KC602～		
体育系		K	701	スポーツ科学	N1KC701	栄養	

◆外国語科目 Wは英語系

			②	④	科目名	①②③④	
第一外国語	英語系		WE	11～	基礎英語 I	L1WEO11～	文 経済
第二外国語	英語コミュニケーション		WC	11～	英語コミュニケーション I	E1WCO11～	
	総合英語		WG	11～	総合英語 I	I1WGO11～	情報工学
	中国語		CN	21～	中国語 I	A1CNO21～	
	朝鮮語		KR	31～	朝鮮語 I	E2KRO31～	経営
	ドイツ語		DE	41～	ドイツ語 I	L1DEO41～	文 芸術
フランス語 I		FO	51～	フランス語	A1FOO51～		

◆文学科 Sは専門科目

			②	④	科目名	①②③④
専門科目	日文専攻	必修	SJ	11～	日本文学入門	L1SJO11～
		選択		31～	日本語表現法 I	L1SJO31～
	英米専攻	必修	SE	11～	英語学概論 I	L1SEO11～
		選択		31～	英語学概論 II	L1SEO31～
	歴考専攻	選択必修	SH	21～	日本史概説 I	L1SHO21～
		選択		31～	保存科学概説 I	L1SHO31～
	心理専攻	必修	SP	11～	心理学概論A	L1SPO11～
		選択		31～	学習・言語心理学	L1SPO31～
学科共通	卒業研究		SX	11～	卒業研究	L1SXC11～

◆教育学科 Sは専門科目		②	④	科目名	①②③④
専門科目	教職基幹科目	ST	11～	教職論	K1STO11～
	小学校・中学校	SC	11～	道徳教育の指導法	K1SCO11～
	幼稚園教諭・保育士	SB	11～	保育原理	K1SBO11～
	教科専門科目	SK	11～	国語(書写含む)	K1SKO11～
	英語専門科目	SE	11～	英語学特論	K1SEO11～
	グローバル人材	SG	11～	国際理解教育概論	K1SGO11～
	ICT活用新課題対応能力	SI	11～	ICT活用教育概論	K1SIO11～
	実習関連	SS	11～	学校インターンシップ	K1SSO11～
セミナー・卒業研究	SX	11～	教育学基礎セミナー	K1SXO11～	

◆経済学科					
専門科目	会計系	SA	11～	会計学基礎 I	E1SAO11～
	経済系	SE	11～	経済数学	E1SEO11～
	情報系	SI	11～	情報マネジメント基礎	E1SIO11～
	法律系	SJ	11～	税法基礎	E1SJO11～
	経営系	SM	11～	マーケティング論 I	E1SMO11～
	政治系	SP	11～	政治学概論	E1SPO11～
	演習	SZ	11～	基礎演習 I	E1SZO11～

◆経営学科					
専門科目	会計系	SA	11～	財務会計 I	E2SAO11～
	経済系	SE	11～	現代経済学 I	E2SEO11～
	情報系	SI	11～	プログラミング基礎a	E2SIO11～
	法律系	SJ	11～	税法基礎	E2SJO11～
	経営系	SM	11～	経営学基礎 I	E2SMO11～
	政治系	SP	11～	政治学	E2SPO11～
	演習	SZ	11～	基礎演習 I	E2SZO11～

◆情報工学科					
専門科目	基礎科目	SF	11～	微分積分学 I	I1SFO11～
	共通科目	SS	11～	マルチメディア表現と技術 I	I1SSO11～
	コンピュータ工学コース	SC	11～	電気・電子回路	I1SCO11～
	データ科学コース	SD	11～	データ分析	I1SDO11～
	卒業研究	SI	11～	卒業研究 I	I1SIO11～
教職科目	-	KS	11～	数学科教育法 I	I1KSO11～

◆芸術学科					
専門科目	専門共通科目	SC	11～	芸術表現基礎a	A1SCO11～
	絵画分野	SP	11～	絵画演習	A1SPO11～
	造形分野	SZ	11～	工芸演習	A1SZO11～
	ビジュアルデザイン分野	SV	11～	視覚伝達論a	A1SVO11～
	映像メディア分野	SM	11～	CG活用演習a	A1SMO11～
	工学デザイン分野	SE	11～	プロダクトデザインa	A1SEO11～

◆スポーツ科学科					
専門科目	専門必修科目	SR	11～	運動生理学	S1SRO11～
	専門選択必修科目* <sup>1</sup> 実技科目	SP	11～	スポーツ実技 I (水泳)	S1SPO11～
	専門選択科目	SE	11～	地域とスポーツ	S1SEO11～

◆栄養学科					
専門基礎分野	専門基礎分野: 社会と環境と健康	SE	11～	公衆衛生学	N1SEO11～
	専門基礎分野: 人体と・・・	SB	11～	解剖生理学	N1SBO11～
	専門基礎分野: 食べ物と健康	SH	11～	食品学 I	N1SHO11～
専門科目	専門分野: 基礎栄養学	ST	11～	基礎栄養学	N1STO11～
	専門分野: 応用栄養学	SA	11～	応用栄養学 I	N1SAO11～
	専門分野: 栄養教育論	SK	11～	栄養教育論 I	N1SKO11～
	専門分野: 臨床栄養学	SC	11～	臨床栄養学 I	N1SCO11～
	専門分野: 公衆栄養学	SP	11～	公衆栄養学	N1SPO12～
	専門分野: 給食経営管理論	SL	11～	給食経営管理論	N1SLO11～
	専門分野: 臨地実習	SR	11～	臨地実習 I	N1SRO11～
	その他: 総合演習	SG	11～	総合演習	N1SGO11～
	その他: 栄養に係る教育に関する科目	SS	11～	学校栄養教育法	N1SSO11～
	卒業研究	SX	11～	卒業研究 I	N1SXO11～
	関連科目	SF	11～	実践栄養学特論 I	N1SFO11～

## 7. ✓ 履修登録の重要ルール

項目	ルールと注意点
単位上限	卒業要件科目の履修登録上限単位数は、原則 年間 48 単位とします。
必修科目	定められた学年において、確実に単位を修得していくように心がけること。単位を修得できなかった場合は再履修しなければならない。
選択科目	Web シラバスを熟読し、各科目の内容、各人の長所・短所を考えて、目的を達成できる系統だった科目を選択すること。
履修順序	シラバス等で履修順序の指示(例「〇〇学 I・II の順に履修すること」等)がある場合は、これに従うこと。
既修得科目	既に単位を修得した科目は、再び履修することはできない。
未登録	登録しない科目を受講しても、単位は与えられない。
登録変更	一度登録した科目は、原則変更することができない。
時間割	開講科目の授業時間割は、学期開始前に公示します。
登録期間中の留意点	履修登録完了前から、授業に出席すべき日数として数えられていることに留意すること。
最終確認	定められた履修登録期間に Web 上で履修登録を行い、この期間中に履修登録結果が正しいかどうかを確認し、間違いがある場合は修正をすること。

## 8. 🚩 特別な履修手続きと注意事項

Web 履修以外に、以下の手続きがあるので注意すること。

### ① 再履修について

- 単位を修得できなかった科目については、再履修できます。

### ② 他学科(他専攻)履修

対象	手続き	制限
他学科	所属学部(学科)の他学科の開講科目を受講希望する場合、「他学科・他専攻履修願(特別聴講願)」(教務部で交付)に必要な事項を記入し、担当教員の許可を受けた後、教務部に提出する。(Web 履修はできない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教室の収容力等の関係で支障があるときは、許可されないことがある。</li> <li>• 教育学科・栄養学科は、他学科の学生の履修は認めない。</li> <li>• この履修科目も、履修上限単位数(年間 48 単位)に含まれます。</li> </ul>
文学科の他専攻	「他学科・他専攻履修願(特別聴講願)」を教務部提出後、各自で Web 履修も行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 短大は履修修得した単位のうち、在籍する学科の卒業要件単位として認定される上限は8単位である。</li> </ul>

### ③ 他学部履修について

- 所属する学部の科目のほかに、他学部開講科目として公示されている科目を受講することができます。
- 手続き:「他学部履修願」(教務部で交付)に必要事項を記入し、担当教員の許可を受けた後、これを教務部に提出すること。(教室の収容力等の関係で支障があるときは、許可されないことがある。)
- 制限:教育学部・栄養学部は、他学部の学生の履修は認めない。
- 上限単位数:この履修科目も、履修上限単位数(年間 48 単位)に含まれます。

学部学科	認定単位数上限
文学部 文学科	16 単位
教育学部 教育学科	2 単位
経済学部 経済学科	原則 20 単位
経済学部 経営学科	原則 20 単位
芸術学部 芸術学科	16 単位
スポーツ科学部 スポーツ科学科	20 単位
栄養学部 栄養学科	20 単位
情報工学部 情報工学科	原則 20 単位

### ④ いしかわシティカレッジにおける履修科目

- 申込:申込用紙の交付及び提出は教務部に申し出ること。
- 取消期間:本学の履修登録期間と同様である。
- 出席:授業初回・第 2 回は必ず出席すること。
- 単位認定:学部規程の他学部履修の規定を準用する。

#### ◆ 履修の取消について

- 取消期間:履修取消を希望する場合、各期の授業開始後、所定の履修取消期間に教務部に願い出なければならない。
- 期間の公示:履修取消期間は掲示により公示する。また、指定期間以外の履修取消はできない。
- 必修科目:必修科目は、原則取消できない。
- 注意:履修取消の際は、卒業要件単位数等に十分注意して、取り消しを行うこと。

## 9. 📌 単位認定と各種試験

### ◆ 単位認定の評価方法

本学における単位修得は、試験、レポート、作品提出等を総合して評価されます。

### ◆ 定期試験のルールと時間割

項目	ルール
受験科目	学期始めに登録し履修した科目に限られます。
受験資格	出席時間数が授業時間数の3分の2以上でなければ、その科目の試験を受けることができません。(公欠の取扱いについて、教育学科、栄養学科では別途定めます。)
試験時間	60分で実施。

時限	定期試験時間帯
1限	9:30 ~ 10:30
2限	10:50 ~ 11:50
3限	12:50 ~ 13:50
4限	14:10 ~ 15:10
5限	15:30 ~ 16:30
6限	16:50 ~ 17:50

### ◆ 追試験(やむを得ない事由)

- **対象:** 本人の病気、天災、交通事故、就職試験、忌引、教育実習・博物館実習、その他やむを得ない事由により、定期試験を受けられなかった者。
- **手続き:** 追試験を受けたい者は、追試験願を試験欠席の翌日から4日以内に教務部へ提出すること。
- **添付書類:** 病気の場合は診療時の領収書等、氏名や通院時間がわかる証明書を添付すること。

### ◆ 再試験(不合格者への措置)

- **対象:** 定期試験の成績判定の結果、不可と認定された科目について再試験の機会を設けることがあります。
  - **評価:** 再試験の成績評価は「可」または「不可」となります。
  - **実施方法:** 別に定めます。
-

## 10. ④ 試験受験時の重要ルールと不正行為

### ◆ 受験の際の注意事項

項目	ルール
学生証	受験の際は学生証を机上に提示すること。 忘れた場合は、試験開始前までに教務部で「仮受験票」の交付を受けること(300円が必要)。
遅刻	原則として20分以上の遅刻を認めない。
机上	学生証及び筆記用具以外のものを置くことは許されない。また、机の中は空にすること。 ただし、特に許された辞書、教科書等はこの限りではない。
その他	試験場においては、監督者の指示に従って行動しなければならない。

### ▲ 不正行為に対する措置

不正行為をした場合、当期履修登録した科目(通年科目を含む)すべてを零点とし、以後の受験を停止します。

代理人受験及び他人の学生証の持込みにより身分を偽って受験すること。  
持ち込み不可であるテキスト、ノート、参考書、辞書等を持ち込み、利用すること。  
紙片、筆記用具、机等に予め書き込んだものを利用し、又はこれを利用させること。  
他人の答案を写したり、又は他人に答案を見せたりすること。  
他の受験生との談話、もしくは信号、符号又は通信を利用して試験に関する情報を交換すること。  
その他、監督者が不正行為と判断した行為。

### ◆ レポート提出ルール

- レポートは筆記試験の代わりです。授業中又は掲示で指示されるので、指示に従って提出すること。
- 提出先:授業科目担当教員に直接提出する。
- 表紙の記載事項:レポートには表紙をつけ、授業科目名、題名、学科(専攻)、学年、学籍番号、氏名を明記すること。
- 提出期限は厳守すること。

## 11. GPA(Grade Point Average)について

本学では、学修状況を客観的に評価する「GPA 制度」を導入しています。GPA は学内ポータルサイト Campusmate で確認できます。

### ◆ GPA の意味と活用

GPA の値とは、各自の成績を数値化したものです。学期や学年毎の GPA や入学からの通算の GPA を比較することで、自らの学修成果の推移を知ることができます。

活用目的	詳細	基準
学修状況の検証	本学が学生の学修状況を測定・把握し、学修到達度を検証するために活用します。	—
進級・卒業判定	進級判定・卒業判定に活用します。	原則 1.0 以上とする。
奨学金・褒賞	各種奨学金の受給審査や学業成績に関する学長褒賞の候補決定のために活用します。	—

### ◆ GPA の判定基準と GP(Grade Point)

GPA は、下記の基準に基づいて評価した成績の GP(Grade Point)に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った1単位あたりの GP 平均値(Average)です。

判定	評価	評点	GP	内容
合格	秀	100 ~ 90	4	特に優れた成績
	優	89 ~ 80	3	優れた成績
	良	79 ~ 70	2	良好な成績
	可	69 ~ 60	1	合格と認められる成績
不合格	不可	59 以下	0	不合格
	放棄	—	0	放棄
認定	認定	—	—	他大学等で修得した科目を認定した場合

### ◆ 計算式と対象科目

- 計算式:  $GPA = (\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1) \div \text{総履修登録単位数}$
- 【重要】GPA の値には、不可、放棄の評価を受けた科目についても計算に組み入れられます。安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となるので注意が必要です。
- 対象科目:各学部(学科)が規定する卒業要件に関わる授業科目とします(不合格科目も含む)。

- **対象外:**履修取消期間内に科目登録を取り消した科目。他大学等で修得した単位で、本学の単位として認定された授業科目。

## 12. 成績通知について(学内ポータルサイト Campusmate)

成績は、学内ポータルサイト **Campusmate** にアクセスして、必ず確認すること。

---

## 13. 転学部・転学科・転専攻制度

本学では、「転学部・転学科・転専攻」制度を設けています。

### ① 受け入れ学年・時期

項目	原則	注意点
受け入れ学年	2 年次または 3 年次受け入れを原則とする。	当人の履修状況に応じて相当する学年に許可する。
時期	学年の始めとする。	—
制限	教育学科・栄養学科では、転学部・転学科は受け入れない。	—

### ② 志願資格

転学部・転学科・転専攻を志願する者は、**既修の授業科目からみて**、転学部・転学科・転専攻した後に卒業が見込まれる者でなくてはならない。

### ③ 選考及び許否

選考方法及び許否については別に定める。

---

## 14. 希望留年制度

本学では、以下の条件を満たした学生に対し、希望により卒業認定を留保することができる\*\*「希望留年」制度を設けています。相談窓口は教務部\*\*です。

この制度の下では、学生としての身分が保証されており、図書館の利用、あるいは就職指導を受けること等ができるので、ゆとりを持って各自の適性に応じた進路開拓やキャリアアップを行うことが可能です。

### ① 許可条件

次の各号に掲げる条件を満たし、本人の願出がある場合、希望留年が許可される。

- 在学年数が4年以上となる学生であること。
- 所属学部の卒業に必要な単位を修得していること。
- 学納金を完納していること。

### ② 願出手続き

希望留年を願出する者は、卒業(予定)の1ヶ月前までに「希望留年願」を提出しなければならない。(願出の時点では、単位は修得見込で構わない。)

### ③ 希望留年の期間・学納金

項目	内容
期間	半期または通年を原則とする。
学納金	希望留年する者は、半期毎の所定の期日までに、授業料の半額を納入しなければならない。
返還	一旦納入した授業料はいかなる理由があっても返還されない。

### ④ 希望留年する者の学修

希望留年期間中に、学修を希望する場合、科目担当者の了承を得て履修することができる。